

～第6次二宮町総合計画策定に向けて～

10年後への町トーク（ワークショップ）

二宮町の「現在」と「未来」を考える

【第3回記録】

日時：令和3年11月13日（土）9:30～12:00

テーマ：【福祉・健康・保健】【生涯学習・スポーツ、歴史・文化】

《テーマ》 福祉・健康・保健

【課題①】 地域で助け、支え合いができる共助のまちづくりのために

→誰もが身近な地域で安心し、お互いの多様性を尊重しながら、いきいきと暮らし続けられる地域社会とするため、福祉ニーズの多様化に対応していく必要があります。そのため、町民や地域、民間事業者等と町が連携して行っていくべき取組みはどのようなことでしょうか。

【課題②】 誰もがいくつになっても健康に生活ができる町を目指すために

→当町では、子どもから高齢者までの健康づくりとして、未病センターにのみやを開設しているほか、介護予防事業や母子保健事業等でも健康づくりの視点を取り入れています。誰もがいくつになっても健康に生活できるよう、町としてどのような取組みが必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
住民の意識づけと環境づくり	<p>◎長期的には「オープンな心」と「善良&タフな価値観」を持った人を育てる。</p> <p>◎短期的には、衝撃的な体験ワークショップ等を通して、住民の価値観を変えることが必要か。</p> <p>◎制度や決まり事から考えるのではなく、シンプルに困っている人を助けるとい意識を持つとともに、解決できないかもということを前提に動ける関係性ができるが良い。また一方で、「助けて」「困っている」と言いやすい環境をつくることも大切。</p> <p>◎誰もが役割(助ける、助けてもらう)をもった関係性ができるが良い。</p>
気軽に相談できる場づくり	<p>◎誰もが参加しやすい、様々な世代の交流の場となる「通いの場」をつくる。</p> <p>○開催場所まで来られない方のために、生活に身近な場所で運動やゲーム、会話等ができる「小さな(5~6人程度)集まりの場」をつくり、生活に関する話題を提供する。</p> <p>→現在、「通いの場」へ来る人が高齢者主体になっているため、再度、周知が必要。</p> <p>→個人宅等をお借りして「ミニ通いの場」を行ったらどうか。体操DVDを作成し、それに組み込んでもらう。(従来の通いの場とあわせ、大勢の方の健康を増進させることが可能)</p> <p>→高齢者が集まっている場所に子どもやその親と一緒に体操やゲームを行うことで、お年寄りはこういう感じと分かってもらい、お互い困っている高齢者を見たら、助けてあげる、声をかけてあげる。</p> <p>→高齢者も、子どもたちの登・下校を見守って声をかける雰囲気を作ることで、健康でいられると思う。</p> <p>○年代の違う団体やグループの融合。(介護施設、デイケア、通いの場、老人会、託児所、保育所、学童保育、こども会、部活動 など)</p> <p>→同じ場所で、同じ時間を一緒に過ごす。(できれば日常的に。もし将来、空き校舎が出来た時は場所としては好ましい。)例えば、手遊び、歌、工作、畑仕事、運動、勉強等、季節の行事や各グループの発表会等も一緒に過ごすことで、子ども達の保護者も加わり、様々な年代の方たちが交流できる。世代を超えて、教え合ったり、お世話をしたり、友達になったり、支え合ったり、助け合ったりと刺激し合い、心身ともに健康に過ごせるのではないかと考える。</p>

<p>課題の把握と必要情報の提供</p>	<p>◎福祉に限らず、日常のどんなことでも相談できる窓口をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間365日対応で課題を把握し、それに対するアイデアや具体的な動きをつないでいける場とする。 ・身体健康だけでなく、心の健康を気遣えるような場。 ・その窓口をつくるためには、今ある資源(施設)の整理が必要。 ・その窓口でさまざまな要望をマッチングできる。 <p>◎情報提供の方法を工夫する。(ex.プッシュ通知、情報弱者を拾い上げる仕組みづくり、新しい井戸端会議)</p> <p>◎情報を得るためには、提供されるのを待つのではなく、自ら動くことが大切。何でも行政任せではダメ。何かがある場所は匂いでわかる町の規模でもある。</p>
<p>身近な生活エリアでの共助</p>	<p>○防災コミュニティセンターなど地域拠点の運営の見直しと地域の見守り人を配置する。</p> <p>○長屋文化の復活、小さなおせっかい、隣人関係、井戸端会議は、オレオレ詐欺や不審電話などの手の巧妙な手口による事件や事故の防止につながる。(気配り、目配り)</p> <p>○私の住んでいる地区(梅沢)は共助出来ていると感じている。</p> <p>○個人情報保護法の縛りにより必要な情報が得られにくいためか、近所づきあいすら難しい時がある。もっとオープンな世の中であってほしい。また、助けてと伝えられる勇気も必要。</p>
<p>地域福祉の基本としての地区社協の位置づけ</p>	<p>○地域福祉の根底部分の役割を担う役割として、地区社協を町社協の下部組織ではなく、各自治会や町内会の組織の一部とする。</p> <p>→地区社協や通いの場の認知度が若い世代ほど低い。(地域福祉の要である地区社協や通いの場が、高齢者世代に特化したものの様に捉えられていることに違和感あり。)</p> <p>→福祉政策は高齢者、児童、障害者、貧困世帯など対象者別に考えられているが、その全てを網羅するのが地域福祉であり、福祉ニーズの多様化に対応するためには地域の根っことも言うべき自治会単位での活動が重要。</p> <p>→全ての住民が地域福祉の対象という意識と、全世代参加型の地域組織が必要。自治会等は若い世代も組長等の役割があり、子ども会も参加するため、地域福祉の周知、担い手にもつながる。</p>
<p>地域の実情に合わせた柔軟な対応</p>	<p>◎本来、国がやるべきことを自治体に押し付けている状況だが、この状況をみんなで協力してしのいでいく必要あり。そのため予算を確保し、担当課を充足することで、「みんなで暮らしていくまちづくり」態勢を整える必要がある。</p> <p>→二宮町には、実際に動いている人も多く、このような活動を知ってもらい、広げていくことが大切である。</p> <p>◎暮らしを充足し、生き方に満足して死んでいけるような環境と共通目標をもって実現していく。</p> <p>○国の制度と現場の実情にズレがある。65歳問題や直Bアセスメント問題(就労継続B型の利用に係る、就労移行支援事業所での就労アセスメント)など、町は現場の実情をしっかりと把握し、各事業所や学校等と連携した柔軟な対応が必要。</p>

	<p>○福祉サービスの制度はあっても、事業所の人材不足等の理由から利用できないものも多い。市町村間でも格差があり、二宮に住まず、サービスが充実した市町村に転出する人もいる。大変だが、せめて平塚や小田原の基準に合わせてもらいたい。</p>
百合が丘での課題が町の課題	<p>◎現在の百合が丘の状況が今後、二宮町全体の課題となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区委員が高齢のため、地区の行事に参加できない。 ・転出や転入を地区委員が把握できない。→転入者とのコミュニケーション強化 ・高齢・1人住まいのため買い物、自炊ができない。→巡回販売(御用聞き)、町の飲食店や給食センターと連携した弁当の出前 ・空き家が増加している。→移住体験、町外在住町職員の寮 ・緑が少ない。→みかんの木を植え、小学生による収穫体験 ・通学時の安全員が不足する。→新聞配達員の有償参加、バス通学 ・子どもの数が減少し、不登校の要因にもなっている。→複数学年複式学級方式 ・公共施設の駐車場が不足している。→老人憩いの家、保育園、公会堂等を一色小学校に集約し、グラウンドの一部を駐車場化 ・雨の日の遊び場がない。→小学校教室、体育館の一部開放
保健センター(未病センター)の活用	<p>○「保健センターってどこ？」と聞かれることが多い。未病センターという良い施設もあるのに残念。加えて、「遠い」「坂が」との方もあり。</p> <p>→未病センターを効果測定の間としても位置づける。愛知県尾張旭市では、「らくらく筋トレ体操」に取り組み、その効果を歩行速度の向上としてあらわしている。効果を見える化することで、やる気にもつながる。</p> <p>→保健センターに気軽に行けるよう、タクシー代の補助やにのバスの利用ができるとう良い。</p> <p>◎健康とは何かと考えた時、本人や家族の納得感に帰することでもあり、習慣を変えることが大切。</p>
吾妻山を活かした健康づくり	<p>○健康に生活できる町づくりとして、吾妻山をもっと楽しめるような取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吾妻山の登山道に手摺を増やす。(シニアの登山者の増加) ・樹木だけでなく、草花にも銘板があるとさらに親しみやすい。 ・昔の登山道を再整備して多様な楽しみ方が出来るように。 ・旧陸軍の防空壕を観光資源として活用。(道の整備と案内板の設置) <p>○吾妻山公園の乗り合いタクシー(介助者必要)の話題で、値段が高いという声も多く聞かれた。</p>
ウォーキングによる健康づくり	<p>○二宮・中井・秦野を含めたウォーキングマップを作成し、町民に配布する。ウォーキングをしたいと日頃から考えている人でも、行き方や所要時間、その他の情報が分からないために、二の足を踏んでしまう場合もある。情報があれば、自らウォーキングしてみようという気持ちも起こるのでは。</p> <p>◎ウォーキングマップは実際に作られているが、それ自体があまり知られていないのが現状。</p> <p>◎史跡、名所・旧跡、季節情報など、さまざまなルートを設定する。また、店舗情報等も掲載し、携帯とリンクするとより便利である。</p> <p>◎トイレ・ベンチの場所、歩道の有無などの情報があると安心して歩くことができる。</p>

	<p>○散歩したくなる道や休憩場所、立ち寄りたくなる個店や喫茶店の配置した回遊路を整備する。</p> <p>○JOYカードを活用したポイント提供を行う。 →二宮万歩計(60歳以上が1日3,000歩以上歩いたら5ポイント付与、6,000歩以上歩いたら10ポイント付与)</p>
<p>学校施設の整備</p>	<p>○学校のトイレが古く、衛生面・精神面から使用できない子どもが増えている。健康障害にも繋がるため、誰もが使用できる設備を整える必要がある。 →学校を災害時の避難所として活用することを考慮することも重要。</p> <p>○学校備品は、子どもたちの健全な成長のためにも安全なものを整備する必要がある。特にスポーツは、健康を保ち、将来の可能性を開くことに繋がるため、安全かつ時代に即したスポーツルールにも適用できるものが好ましい。</p>

《テーマ》 生涯学習・スポーツ、歴史・文化

【課題①】 魅力的な学習活動やスポーツの機会を提供するために

→人生100年時代を迎え、人生設計の多様化が進む中、「自ら学ぶ」ことを通じて、生きがいを見つけることは、生涯にわたって充実した暮らしを送るうえで欠かせないものとなっています。学習活動やスポーツを通じて、町民一人ひとりが生きがいをもって充実した生活を送れるようにするためには、どのようなことが必要でしょうか。

【課題②】 ふるさと二宮への誇りと愛着を醸成していくために

→小中学生のアンケートにおいて、「町の特徴がない」「町の良いところを町外の人に伝える」という意見が見られました。町民のみなさんが、ふるさと二宮への誇りと愛着を持ち、さまざまな活動を通して、町の活性化に寄与できるようにするためには、どのようなことが必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
二宮町らしい学習機 会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◎町内在住の大学教授に小中学生向けの特別事業を開いてもらう。 ◎二宮町の生活文化(近代史)の掘り起こしを行う。それを学べる場所がこの町には残っており、それを知る体験ができる。 ◎二宮の歴史・文化を知る学び(ex.小学生が町の高齢者にインタビューを行い、町のライブラリーとして残す) ◎二宮町立(まちづくり)大学を立ち上げる。(学習保障のない学びの場づくり →魅力の発信、社会資源としての学校の活用) ◎二宮町ならではの学校をつくる。 →子どもも大人も遊べる場所、年代を超えて学びたいことを学べる場所 ◎さまざまな分野に精通した講師を招致する。 →町民アンケートによるニーズの把握や刺激的な情報を提供。二宮に住んでいる人誰もが講師になり得る。 ◎オンラインを活用した学習と手取り足取り対応できる学習スタイルのバランスが必要。 ○町の寺子屋(フリースクール)をつくり、学びたい人が学べる環境、誰もが教師であり、生徒として、年齢、性別関係なしに教え合う環境とする。ボケ防止にもなる。 ○その分野で著名な人を呼んで講演会や学習会を計画することで、多くの町民に興味をもってもらい始めるきっかけづくりを提供する。 ○シルバー人材等にもっと頼って活動してもらうなど、町民活動の場を増やす。 ◎自分が何らかの形で町に関わっていると自覚できることが大事であり、それがつくれる町の規模でもある。 ◎住んでいる人が二宮を知る、二宮町に住んでいる人に知らせる。(声が小さな人にも伝わる工夫) ◎毎年、町の現状と課題を全戸に配布し、対応策を募集する。小中学生にも夏休みの課題として、提出してもらう。 ○二宮の大地の成り立ちや歴史がわかり、様々なワークショップや運動ができる遊学文化拠点としての東京大学果樹園跡地の整備と図書館を充実する。

<p>スポーツ活動への投資の再確認</p>	<p>◎人口が減少し、施設を維持できないような状況となっている中、スポーツ施設に高額な予算を投入する時代ではなくなりつつある。もっと他に投資するところがあるのでは。</p> <p>◎生活に余裕がないのに子どもにスポーツをやらせる、休日のスポーツ遠征に保護者が送迎しなければならないような状況は望ましい姿ではない。子どもたちには、自分の存在を確認し、「生きる力」を学べる場をつくる必要があるのではないか。</p>
<p>スポーツへの関心向上と参加機会の創出</p>	<p>◎プロスポーツを誘致し、それを軸にした町づくりができるが良い。</p> <p>◎情報の伝達手段として、YouTube の活用拡充を図る。 →町の公式チャンネルによる発信。</p> <p>◎吾妻山マラソンを実施する。</p> <p>◎学校のクラブ活動と大人のサークル活動と一緒に活動することで、交流を図る。</p>
<p>町の魅力と生活文化の掘り起こし</p>	<p>◎海、山、小川が身近にある自然が魅力的な町を活かし、四季の自然環境づくりなどを通じて、ホテルやメダカなどの小さな発信ができる。SDGsにも通ずる。</p> <p>◎町の魅力と生活文化の掘り起こしを行い、まち中での見える化を行うとともに、学校教育にも取入れる。</p> <p>◎WEBを活用した地域ブランディングと受信者が必要としている情報を的確に発信することが大事。</p> <p>◎情報発信があまり上手ではないので、他県から移住してきた方々等から良さを発信してもらうなどの工夫が必要。子どもたちの意見にもあるように、ずっと二宮に住んでいると当たり前の景色だったりして、良さが分からないと地元の方からも聞かれる。</p> <p>◎「愛着」は刷り込むものではなく、醸成するもの。学ぶ力と生きる力が養われれば、自然に町への愛着は生まれる。一旦、町外に出てこの町に戻ってくると、町の良さがわかる。</p>

《テーマ》 町の目指す姿

→本町の「強み」や「弱み」を踏まえ、10年後の町の目指す姿をお考えください。

《強み》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ◎恵まれた自然風土と人がある ◎都市化していない ◎町の畑は山を抱えているため、水やりは少なくよく、ミネラルも豊富 ◎自然があり、人が良い。 ○身近に風光明媚を体感できる町。360度のパノラマと四季の展望。 ○広がる空 ○温暖で災害の少ない町 ○4つのプレートがぶつかりあっている世界でも稀な場所 ○自然豊かで古くからの歴史、生活文化、季節感
高いマンパワー	<ul style="list-style-type: none"> ◎多様な人がいる ◎主体的な人材の割合が高そう ◎人のつながりが強い。(人のつながりが強い分、そのつながりから外れている人は却ってつながりにくい。) ○住民力
コンパクトなスケール感	<ul style="list-style-type: none"> ◎小さな町なので情報が届きやすい。 ○人口も面積も小さいコンパクトな町。 ○人が温かい(閉鎖的だけでも一度受け入れると温かいという意味もある。) ○地域のイベントや行事を通して交流がある。

《弱み》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
自覚・アピール力不足	<ul style="list-style-type: none"> ◎町民のリソースをうまく使えていない。 ◎情報の発信・受信力が弱い。 ◎町民自身が自分の町を好きでない人も多そう。 ◎自分たちの町の魅力を知らない。 ○町の魅力を知らない ○アピールが下手
選択と集中の欠如	<ul style="list-style-type: none"> ◎大切にすべきものと後回しにすべきものの峻別ができない。 ◎多様な考え方が出され、まとまらない。 ○町の特徴が見えない。町の目指すものが分からない。 ○行政経営 ○新しいものを取り入れるのに時間がかかる。

《町の将来像》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
自然を活かした暮らし	◎自給自足、地産地消—資源(人・モノ)の高循環を →町の人々の知恵(アイデア)を活かし、町の資源を有効活用する。 ◎自然災害に強い、耐性のある町 →これから顕在化する経済や食糧危機をモノともせず、恵まれた自然の中でみんながのほほんと生きることのできる町 ◎オールタナティブな豊かさ(暮らし)も追求できる町 ○海、川、里山を回遊でき、遊学文化を感じる小さな町にのみや
マンパワーを活かした共助の町	◎軽やか、しなやか、アジャイル、オープンガバメント ・失敗を恐れない行政 ・主体性のある人が多い町 ・さまざまな知恵の活用 ◎どんな人であっても受け入れあえる気持ちのある人が育つ町 ○安全、安心で住みやすい町、住みたい町 ○コンパクトな町ならではの良さを活かし、できることからできる人たちが集まって始める。(例えば、有償ボランティアや公募などで業務に責任をもってもらうなど。)